

組み立て手順 CUBE6



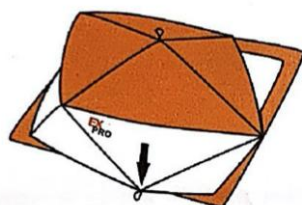
1. 収納バッグから全ての中身を取り出します。付属品はチムニーパッチ(煙突穴部材)、張り綱5本(白)、スカート用ペグ10本、張り綱用ペグ5本、ハンモックネット、ハンモックバッグ、天井ジョイント用保護カバーです。設置面のスカートを伸ばして地面に広げます。



2. 側面の一面から順番にタグを引っ張り広げていきます。金具のジョイントに砂や土などが入らないように注意します。



3. 入口ジッパーを開けて中に入り、天井部分は内側から押し上げて張ります。



4. 必ず5箇所の側面タグから張り綱をペグダウンしてください。張り綱は収納時にテントを縛る際に使用する白いロープと兼用です。



5. 側面から広げ始めてテントを組み立て、6面全てを広げます。チムニーパッチを取り付け、室内に天井ジョイント用保護カバー、ハンモックネット、バッグを取り付けます。外側スカートにペグや重石を乗せて固定します。



注意事項!!

ストーブ後側のテント下部に吸気口があります。吸気口は常に確保し、物などで塞がないでください。テント内空気が不足して酸欠状態になる、あるいは煙や炎が室内に戻ってくる恐れがあります。

【天井ジョイント用保護カバーについて】

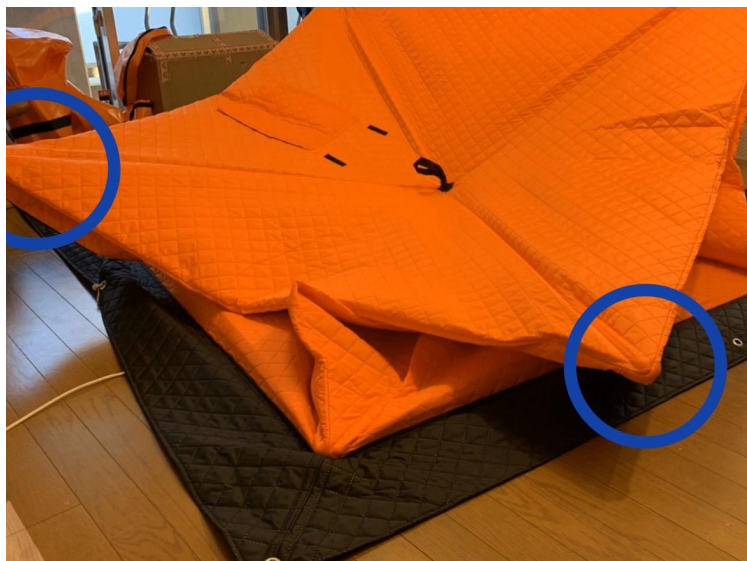
以前、ジョイント部の接着剤が高熱により融解し垂れたことがあったため接着剤の種類を変えました。念のため付属品で天井ジョイント用の保護カバーをお付けしております。下記の写真のように天井のポールに紐で括り付けてご使用ください。



テントを畳むときのコツ



①まずこの状態まで畳みます。



②次に青丸で囲った内側の2つの角を一つにまとめて持ちます。
※この状態のまま畳んでいくとポールに無理な力がかかります。無理に畳もうとすると折れてしまう可能性がありますのでご注意ください。



③中心に向けて地面まで突くように押し込みます。すると、ガチャンと関節が切り替わった音がします。そうすると外側の4角が跳ね上がりやすい形になるのでスムーズに折りたたむことができます。

⚠ 危険



宿泊禁止

- ⊙ 本製品は屋外専用の携帯式サウナです。用途以外(特に宿泊目的)のご使用はおやめください。



常に換気

- ⚠ 使用中は換気口がホコリやゴミなどで塞がれないように注意し、常にテントの中へ新鮮な空気を取り込んでください。換気せず使用すると一酸化炭素中毒の危険や、燃焼不良の恐れがあります。



ストーブ扉 開放危険

- ⊙ 本書で指示のあるとき以外は、ストーブの扉を開けたまま使用しないでください。また、破損等により扉が閉まらない場合は、直ちにご使用を中止してください。テント内に一酸化炭素を含む煙や、火の粉が漏出し危険です。



煙突の外れ 危険

- ⊙ 煙突が外れたまま使用しないでください。一酸化炭素を含む煙がテント内に漏れて危険です。ご使用前に必ず煙突がしっかりと接続されていることをご確認ください。

使用上の注意及び禁止事項



警告： この警告事項を守らないと死亡や重傷に至る重大な事故を起こす恐れがあります。

※ フィールドでは予測不可能な事態が突発的に発生し、製品の性能を超えるような状況に直面する場合があります。以下の説明がすべての危険な状況を説明している訳ではありません。

- 製品は安全面に十分に配慮された造りとなっておりますが、誤った使用方法や設置方法をいたしますと、火災や一酸化炭素中毒などの恐れがあります。プロダクトの性能をよく理解したうえで安全な使用を心がけてください。
- 密閉空間ではなく、煙は煙突から排気されますので通常使用では一酸化炭素中毒の恐れはありませんが、気になる場合は30分に1回程度出入口を開けて換気をしてください
- 雨天時でも使用はできますが、気象状況には常に細心の注意を払ってください。悪天候が予想されるときは使用をお控えください。万が一、使用中に悪天候にみまわれた場合は、速やかに使用を中止して安全な場所へ避難してください。
- 河原の中州や崖下などの増水、落石の危険のある場所でテントを設営しないでください。
- 積雪によりテントの裾が覆われたり、低温化で氷結したときなど、極端に通気性が悪くなります。こまめに除雪したり入り口を開けるなどして常に換気をしてください。
- 薪以外のもの(例:ガソリン、灯油、プラスチック、ビニール、ゴム、竹、発泡スチロール、ベニヤ、化学塗料で塗装された木材など)は絶対に燃やさないでください。また、サウナストーブを焼却炉として使用しないでください。本体や煙突の耐久性を弱める、あるいは有毒ガス発生の原因となる恐れがあります。
- サウナストーブの上や周囲および煙突の周囲には、紙・衣類・洗濯物など可燃物を置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- サウナストーブの周囲には、ガソリン、ベンジン、スプレー缶など引火の恐れのあるものを置かないでください。爆発や火災の原因となる恐れがあります。
- ストーブや煙突は、絶対に改造しないでください。正常な機能が損なわれる恐れがあります。
- テント給気口は常に確保し、物などでふさがないようにしてください。テント内空気が不足して酸欠状態になる、あるいは煙や炎が室内に戻ってくる恐れがあります。
- 燃焼中に本体にヒビが入るなどして破損した場合は、使用を中止してください。
- 灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、可燃物のない場所に保管し、完全に鎮火後、廃棄してください。灰を処理するときに紙袋や樹脂製バケツなどは絶対に使用しないでください。灰が入っている容器を可燃物の上に置かないでください。灰は冷めているように見えても長時間火種が残っています。
- サウナストーブから離れるときは、扉が完全に閉まっていることを確認してください。燃焼中の薪や火種がストーブの外に落ちて、火災の原因となる恐れがあります。
- サウナストーブは水平な床面に設置し、テントサウナ以外では使用しないでください。
- サウナストーブの扉は薪の追加、調整など以外では、必ず閉じたまま使用してください。
- 灰入れの引き出しは、着火時以外では必ず閉じて使用してください。
- サウナストーブとテントは触れないように設置してください。
- ベグが刺さる地面(土)で設置し、テント本体はベグとロープで確実に地面に固定してください。風で飛ばされたり雨水が溜まって思わぬ事故につながる可能性があります。
- 扉の開閉操作、着火、薪の投入など、サウナストーブを扱う際は必ず耐熱グローブを装着してください。
- 心臓病、高血圧症、皮膚疾患、お年を召した方、病氣療養中の方、薬服用中の方は、必ず医師にご相談のうえご使用ください。それ以外の方についても、体調に合わせてご入浴ください。
- 当テントの定員は4~6名となります。大人数での使用はお控えください。



注意： この注意事項を守らないとケガを負う、または製品に損傷を与える恐れがあります。

設置時

- 二人以上で作業を行ってください。
- 安全のため、グローブを着用してください。
- 石や木の枝等、テントを傷付ける恐れのあるものはあらかじめ取り除き、整地してから設置してください。
- 煙突のトップ部に可燃物がない事を確認してください。(離隔距離 3m以上)
- 風が強い場所や状況での使用は避けてください。
- 軒下や木の下などの設営は避けてください。また、当テントは屋外専用です。
- サウナストーブのまわりには可燃物を置かないでください。
- サウナストーブの上に置くサウナストーンは崩れないように積み上げてください。
- 常設はせずに、使用の都度、撤去してください。
- 設置に所轄の関係機関による許可が必要になる場合があります。

使用時

- 燃焼中、および燃焼後しばらくの間、ポール、サウナストーブ、煙突、サウナストーンは高温になっていますので絶対に触らないください。火傷の原因となります。
- サウナストーブの輻射熱を長時間、直接皮膚にあけると火傷の原因となります。特に乳幼児、お子様、お年寄り、身体の不自由な方がサウナストーブの近くにいる場合は、まわりの方が注意してください。
- 薪の入れ過ぎや燃焼空気の取り入れ過ぎなどによる、サウナストーブおよび煙突の過熱に注意してください。過熱は、サウナストーブ本体および煙突の破損や劣化を早めるばかりでなく、火災につながる恐れがあります。
- 十分に乾燥した薪をご使用ください。薪以外の燃料は使用しないでください。乾燥が不十分な薪は燃えにくく、不完全燃焼を起こし煙が多く発生します。
- サウナストーブ表面は、本体が冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。
- メンテナンスの際は、グローブなどをはめて作業を行ってください。
- 燃焼中に扉を開ける場合はゆっくりと行ってください。急な大量給気により、炎が扉から外に出る恐れがあります。
- サウナストーンに水をかける際は石上で蒸発できるよう少しずつゆっくりかけてください。一度に多量の水をかけるると非常に熱く感じたり、場合によっては火傷をすることがあります。

撤去時

- サウナストーブ、煙突、サウナストーンは大変熱くなっています。十分に冷めていることを確認してください。
- ベンチなどを撤去して十分なスペースを確保してください。
- 二人以上で作業を行ってください。
- 安全のため、グローブを着用してください。
- 使用後は汚れを落とし、十分に乾かしてから収納・保管してください。
- サウナストーブ、煙突に水を掛けて冷やさないでください。(本体のサビや劣化等の原因になります)
- ポールやベグはそれぞれ付属の専用ケースに入れ、キャリーバックに収納してください。
- 灰は、サウナストーブ本体が冷えている状態で処理してください。火傷の原因となります。
- 灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、完全に鎮火後、廃棄してください。
- 灰を捨てる際のゴミの分別は各地方自治体の指導に従ってください。